

イサキ資源調査

渡辺 健一・岡崎 孝博

目 的

徳島県においてイサキは県南海域の一本釣漁業の重要魚種で、ブリ、マダイ、マアジなどとともに主要対象魚種として漁獲されている。また、徳島県において昭和 61 年度に策定された県南のマリノバージョン構想の中で資源管理型漁業の対象魚種の一つに選定されている。しかし、イサキについては、近年の漁獲量の大幅な減少とともに漁業者の間では漁獲物の小型化や本種当歳魚であるシャカンダ（ド）の減少が指摘されており、資源の減少が考えられている。したがって、本年度から本種を取り上げ、その漁業実態、資源生態を調査するとともにその資源量、漁獲圧の実態、乱獲の有無および資源管理の必要性と方法等を把握することとした。なお、本研究の詳細は、「徳島県沿岸のイサキ資源」として研究報告にまとめたので参照されたい（本誌 193 頁）。したがって、ここでは調査の概要を記す。

調査内容

1. 漁業生産実態

徳島県沿岸においてイサキ漁業の実態を把握するため、県下の漁業生産状況を 1964 年から 1993 年までの徳島県農林水産統計を元に調べた。また、イサキの主要漁場である伊島周辺海域と牟岐大島周辺海域でそれぞれ操業する主要漁協の水揚げ量を調査した。また、一本釣と小型定置網漁業について標本船調査（釣 3 隻、小型定置網 1 隻）を実施した。

2. 資源生態調査

イサキの年齢と成長、成熟と産卵および性比等の生物情報を把握するため、椿泊、牟岐東漁協の漁獲物について、椿泊漁協は周年、牟岐東漁協は 5 - 9 月の盛漁期に月 2, 3 回の体長測定、精密測定調査を実施した。体長測定は尾叉長、精密測定は全長、尾叉長、体長、体重、性および生殖腺重量を測定し、雄については、腹部を圧迫したときに精液を放出するかどうか、また、十分成熟した卵巣については抱卵数を計数し、さらに全標本について耳石により年齢査定を行った。

調査結果

徳島県における漁業生産の経年変動、主要漁協における漁獲量の季節変化が明らかになった。また、本県沿岸のイサキの年齢と成長、成熟と産卵に関する生態的知見がある程度明らかになるとともに漁獲物の年齢構成が把握できイサキ資源管理を行う上での基礎的知見の集積が図られつつある。

なお、本事業は平成 7 年度から国補事業「沿岸特定資源調査」で引き続き継続実施の予定である。